

3つのパワーで根を活性化！

【冬期の施設栽培のポイント】

1. 光合成細菌で根の活力増強

地温が下がると根の活力が低下し、十分な養分を吸収することができません。

光合成細菌は、根圏の環境を整え、根が活動しやすい状態を作ってやることで、低温で弱った根を活性化させます。

2. 消化効率のよいアミノ酸液肥とボカシ肥で養分補給

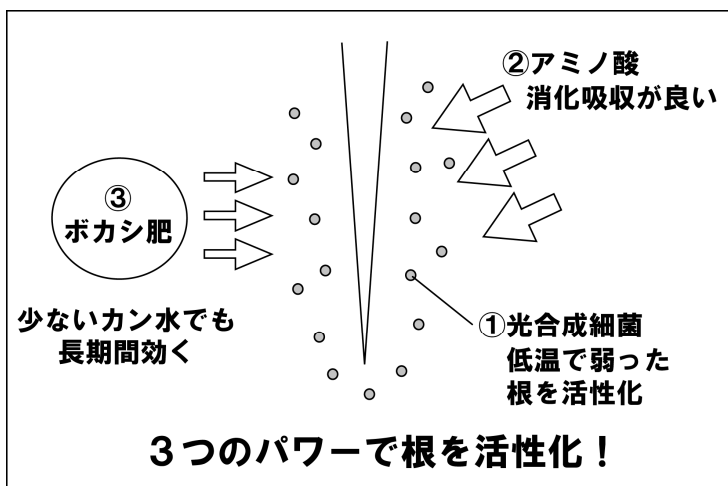
低温時は根の活力が弱まるだけでなく、根からの養分吸収が滞り、生育不良に陥りやすくなります。このため、消化吸収効率の良いアミノ酸液肥は、低地温時でも養分補給に最適です。

また、ボカシ肥を置肥として施肥することで、少ないカン水でも長期間に渡って養分供給を行うことができます。

低温時でも樹勢を維持し、安定して収穫するためには、アミノ酸主体のカン水施肥やカン注施肥を中心に考え、ボカシ肥とMリンPKの置肥を行って足りない分を補うという栽培管理が理想となります。

- ① 光合成細菌・・・根の活性化
- ② アミノ酸液肥・・・低地温時の養分吸収
- ③ ボカシ肥・・・安定的な養分供給

相乗効果で樹勢を回復！



【果菜類の適地温および限界地温】

作物	地 温 (℃)		
	最高限界	適 温	最低限界
トマト	25	18~15	13
ナス	25	20~18	13
ピーマン	25	20~18	13
キュウリ	25	20~18	13
イチゴ	25	18~15	13

【施用例 (10a 当たり)】

☆低地温時の根の活性化

サンレッド・・・ 200～300ml (冬季中20～30日に1回施用)

本製品300mlの中に約3兆個もの光合成細菌を含んでいます。
光合成細菌は、土壤中の発根環境を整え、発根促進・根の活力活性などに効果があります。



☆低地温時は吸収・消化がスムーズなアミノ酸態チッ素で養分補給

- ① **アミビタゴールド** (※)・・・2～3kg + 利用中のチッ素入り肥料
(5～7日おきにカン水施肥)
- ② **アミビタゴールド**・・・20kg のカン注施肥 (植付株数×1/2×200～300cc
の水で薄め、2 株に1 箇所の割合でカン注施肥)

消化吸收の良いアミノ酸液肥です。低地温で根が弱った時でも養分吸収がスムーズに行われ、作物の活力を取り戻します。また、アミノ酸に含まれる旨味成分によって作物の味を濃厚にする効果があります。



※①の代わりに、**アミビタ A 液肥**でも代用可能です。

【アミビタ A 液肥の作り方】

アミビタゴールド・・・20kg
サンレッド・・・・・・200ml
尿素・・・・・・・・・0～20kg
水・・・・・・・・・100ℓ

これらの材料を混合して、2～3日熟成させてください (未熟な場合、ハウス内にアンモニアガスが発生する可能性があります)。

注) トマトやイチゴなど、糖度を要求する作物の場合では、尿素を0～10kg に減らしてください。

☆水を控える冬はボカシ肥で肥料切れ対策

MB動物有機・・・60kg (置肥) ※MリンPK類1袋との同時併用が効果的です。

動物性有機主体のボカシ肥です。じわじわと長期間に渡ってアミノ酸肥効が持続します。また、有機由来のミネラル分も補給することができ、低地温時の生育不良に効果があります。



2013 年の冬も厳しい予報に。 異常気象に負けない野菜作りを！

【気候変動の影響で、寒い冬に】

近年、気候変動の影響で、夏は暑く、冬は寒くなる傾向にあります。

気象庁の統計データによると、北日本と東日本では2年連続で寒い冬となり、西日本では3年連続で寒い冬となりました。その結果、野菜の生育遅れや凍害など、農作物にも様々な影響を及ぼしました。予報では、今年の冬も気温が低くなるとの予報が出ています。

MリンPKは発根促進、同化養分蓄積促進などの効果があり、また葉面散布による生育調整などにより、異常気象下に強い作物作りが可能です。

【過去 30 年間の平均気温との差】

○北日本（北海道、東北）

（気象庁統計データより）

	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年	2009 年
12～2 月	-1.2℃	-1.3℃	+0.6℃	+0.4℃	+1.4℃

○東日本（関東、中部）

	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年	2009 年
12～2 月	-0.9℃	-0.9℃	+0.2℃	+0.6℃	+1.3℃

○西日本（近畿、中国、四国、九州）

	2013 年	2012 年	2011 年	2010 年	2009 年
12～2 月	-0.7℃	-0.7℃	-0.4℃	+0.7℃	+0.9℃

【施用例】

☆雨の後の冷え込みに

MリンPK・・・15～20kg／10a 当たり（降雨前に施肥）

微生物によって発酵処理させたリン酸肥料。通常では 5～15%程度しか吸収されないリン酸を特殊な技術で発酵させることにより、50～90%程度まで吸収率を高めました。リン酸は作物の光合成を活発にし、作物自身による糖分生成を助けます。



☆霜注意報の情報が出たとき

リーフSG・・・1000倍液（葉面散布）

天然多糖類である「プルラン」や「トレハロース」を主体とした葉面保護材。葉面から糖分を吸収させることにより、作物体内の糖分濃度を高めます。また、葉表面に糖類の膜を作ることで、霜や凍結から葉面を保護します。



☆低温ぎみで、生育が鈍っているとき

Pフォスタ・・・・・・1000倍液
リーフアップN・・・・500倍液 }（混用葉面散布）

【Pフォスタ】リン酸を速攻的に吸収させることを目的とした葉面散布材。微生物によって発酵処理されているので、リン酸の吸収効率がよく、作物の光合成能力を高めて糖分生成を促進します。



【リーフアップN】チッ素主体の葉面散布資材。低温で根が弱り、根からの養分吸収が充分に行えない場合などに効果的です。また、微量元素も豊富に含んでいるため、厳寒期の微量元素欠乏対策にも有効です。



【冬期の土づくり】

東日本や北日本など、冬期の作付けを行わない圃場では土づくりを行いましょう。

バクヤーゼK・・・・・・畑の残渣処理：5袋～7袋（全面散布後耕起）

Mイーシー・・・・・・通常の圃場：1袋（米ヌカ 60kg と混合し全面散布後耕起）

連作障害発生圃場：2袋（米ヌカ 120kg と混合し全面散布後耕起）

【Mイーシー】有効微生物群（放線菌、乳酸菌、細菌、酵母菌など）を増殖させることによって、いや地現象や高塩基障害を改善し、ECを下げ、PHを調整するなどの効果があります。

